

---

MAKING THE IMAGE INTELLIGENT

---



2026年3月期 第2四半期

# 決算説明会

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2025年11月12日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

**1 2026年3月期 第2四半期 決算説明**

**2 2026年3月期 通期業績予想**

**3 成長戦略・ビジョン**

**1** 2026年3月期 第2四半期 決算説明

2 2026年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン

世界有数のグラフィックスIPベンダーとしての創業以来の経験・知見を活かし、近年は**アルゴリズム・ソフトウェアからハードウェア**、並びに**エッジからクラウド**に亘る一貫したAIサービスの提供により、お客様や社会の課題解決に貢献しています

会社名	株式会社デジタルメディアプロフェッショナル (DMP)
設立	2002年7月 (2011年6月東証マザーズ上場, 2022年4月東証グロース移行)
所在地	東京都中野区
代表者	代表取締役会長兼社長CEO 山本 達夫
資本金	1,838百万円
連結従業員数	60名 (2025年4月1日現在)
特許数	35件

## IPコアライセンス事業

- AI/GPU IPコアライセンス
- AIソフトウェアライセンス



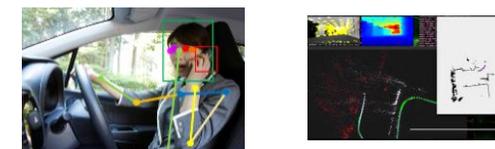
## 製品事業

- アミューズメント市場向け画像処理半導体
- エッジAI半導体
- 協働ロボット向けビジョンシステム
- FA製品 (AMR本体/コンポーネント)
- モジュール



## プロフェッショナルサービス事業

- AIアルゴリズム、コンピュータビジョンソフトウェア受託開発
- FPGA/ボード受託開発
- ロボティクス・セーフティに係る顧客製品・サービス開発サポート



- 中期的な2本の成長エンジンの収益化基盤構築に向け、戦略的投資・リソース傾注
- エッジAI半導体「Di1」の開発・拡販、FA事業（AMR本体・コンポーネント販売実績）は順調
- パチスロの保通協の検定試験適合率が低調に推移していることにより、アミューズメント市場が一時的に停滞し、「RS1」の量産出荷も弱含みで推移。下期にかけて有力機種投入により、回復見込
- 「半導体」技術を基軸とした経営資源集中という戦略的判断のもと、ベトナム拠点の事業を終了

全社	事業別売上高	分野別売上高
売上高	IPコアライセンス	ロボティクス・セーフティ
<b>902</b> 百万円 (YoY※ △41%)	<b>55</b> 百万円 (YoY +14%)	<b>118</b> 百万円 (YoY +42%)
経常利益	製品	アミューズメント
<b>△292</b> 百万円 (前年同期 143百万円)	<b>827</b> 百万円 (YoY △42%)	<b>740</b> 百万円 (YoY △48%)
	プロフェッショナルサービス	その他
	<b>19</b> 百万円 (YoY △65%)	<b>43</b> 百万円 (YoY +41%)

※ YoY (Year on Year) : 前年同期比

## アミューズメント市場の一時的停滞と戦略的半導体開発投資により減収減益

(単位：百万円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減額
売上高	1,535	902	△632
営業利益	144	△299	△444
経常利益	143	△292	△435
親会社株主に帰属 する中間純利益	121	△313	△435

- 戦略的投資として、次世代エッジAI半導体「Di1」の開発費143百万円を支出
- 保通協の検定試験適合率の低調推移に伴うアミューズメント市場の一時的停滞により、画像処理半導体「RS1」の出荷は前年同期と比較してほぼ半減。売上高は41.2%減収
- 前年同期比減収と「Di1」の開発費計上により、営業利益、経常利益は前年同期比減益
- 特別損失として投資有価証券評価損19百万円を計上したことにより親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比減益

## ● 事業別売上高

**IPコアライセンス事業**      **55百万円**    前年同期    48百万円

- デジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ、ロボティクス・セーフティ分野におけるリカーリング収益、メンテナンス・サポート収入等を計上

**製品事業**                      **827百万円**    前年同期 1,431百万円

- RS1の量産出荷、Cambrianビジョンシステム、ドローン向けカメラモジュール、FA製品等の売上を計上
- アミューズメント市場の一時的停滞により、RS1の量産出荷は前年同期比半減。下期にかけて回復を見込む

**プロフェッショナルサービス事業**    **19百万円**    前年同期    55百万円

- 半導体製造設備、AMR向け受託開発サービス収入等を計上

## ● 分野別売上高

**ロボティクス・セーフティ分野\*** **118百万円**    前年同期    83百万円

- ドライブレコーダー関連のリカーリング収益（ランニングロイヤリティ、サブスクリプションフィー）、メンテナンスサポート収入、Cambrianビジョンシステム、ドローン向けカメラモジュール、FA製品等の製品売上、並びに半導体製造設備、AMR向けプロフェッショナルサービス売上を計上

**アミューズメント分野**                      **740百万円**    前年同期1,420百万円

- 主にRS1の量産出荷売上を計上

**その他分野**                                      **43百万円**    前年同期    30百万円

- デジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ、メンテナンスサポート収入等を計上

※ 当分野は、2025年3月期までは「セーフティ分野」、「ロボティクス分野」に分けていたが、協働ロボットやAMRを例に見てもロボティクス技術の進化と社会実装が進むほど、人・モノとの接触やそのリスクを検知するセーフティ技術が重要となっていることに加え、当社の事業方向性も踏まえ、2026年3月期より両分野を統合し、「ロボティクス・セーフティ分野」と呼称することとした

## 自己資本比率は87.7%と高水準を維持 ～戦略的投資を可能にする強固な財務体質～

(単位：百万円)		2025年 3月末	2025年 9月末	増減額	主な増減要因
	流動資産	3,297	2,761	△536	現金及び預金 △486 有価証券 △200 棚卸資産 +142
	固定資産	794	996	+202	投資有価証券 +182
<b>資産合計</b>		<b>4,092</b>	<b>3,758</b>	<b>△334</b>	
	流動負債	461	441	△20	買掛金 +63 その他 △74
	固定負債	19	18	△0	
<b>負債合計</b>		<b>480</b>	<b>460</b>	<b>△20</b>	
<b>純資産合計</b>		<b>3,611</b>	<b>3,297</b>	<b>△313</b>	利益剰余金 △313
<b>負債・純資産合計</b>		<b>4,092</b>	<b>3,758</b>	<b>△334</b>	

1 2026年3月期 第2四半期 決算説明

2 2026年3月期 通期業績予想

3 成長戦略・ビジョン

## 5月13日公表の通期業績予想に変更なし ～2026年3月期は将来の成長に向けた攻めの戦略的投資を実行～

(単位：百万円)	2025年3月期 通期実績	2026年3月期	
		通期予想	増減率
売上高	3,077	3,250	+5.6%
営業利益	265	20	△92.5%
経常利益	271	25	△90.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	157	20	△87.3%

- 中間期は、特にパチスロの保通協等による検定試験の適合率が低調に推移していることにより「RS1」の量産出荷も一時的に弱含みも、遊技機メーカーの有力な新機種の出荷が控えていることから、下期にかけて量産出荷の回復を見込む
- 第3四半期に「Di1」の戦略的開発投資の残りUS\$100万ドルを計上見込
- 中期的には、アミューズメント市場の更なる取り込みに加え、エッジAI半導体事業とFA事業の2本の成長エンジンにより、収益拡大、企業価値向上を目指す

**1** 2026年3月期 第2四半期 決算説明

**2** 2026年3月期 通期業績予想

**3** 成長戦略・ビジョン

## Making the Image Intelligent

画像を智能化する

画像インテリジェンスの力で現実世界の問題を解決し、ステークホルダーに価値をもたらす革新的な製品とサービスを創造する

To develop cutting-edge products and services that leverage image intelligence to address practical challenges and deliver value to our stakeholders.

## 生成AIの進化と拡張(2025年)



### マルチモーダル

テキスト、画像、音声  
など、複数の種類の  
データを理解・生成



### エージェントAI

自律的に「行動」や  
「意思決定」を行う  
AI



### フィジカルAI

物理的な環境に作用し、  
現実世界で実際に動作す  
るAI



### エッジAIとハイブリッド コンピューティング

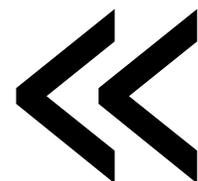
学習・生成・推論の一部  
をクラウドからエッジ/  
オンデバイスへ。低遅延・  
高セキュリティ・省電力を  
実現

# マルチモーダルによりエッジAI市場が爆発的に拡大

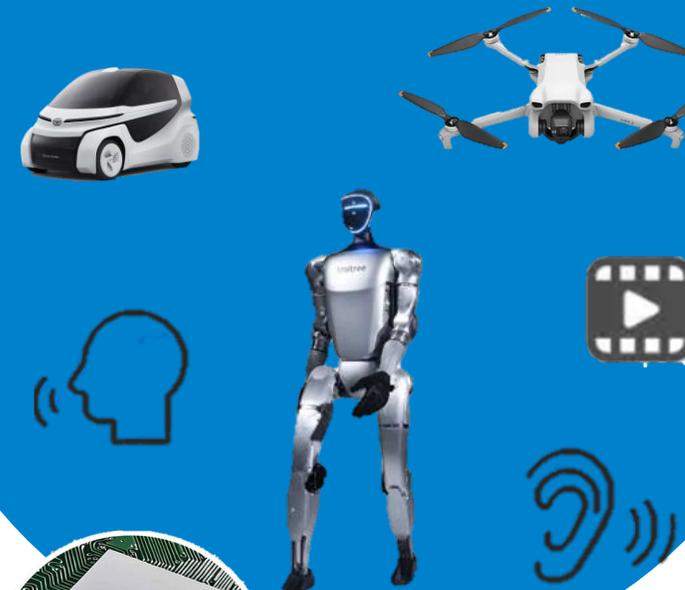
学習・推論



クラウド

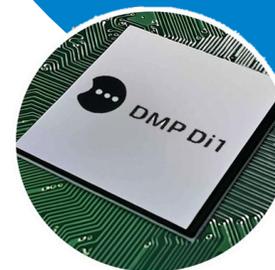


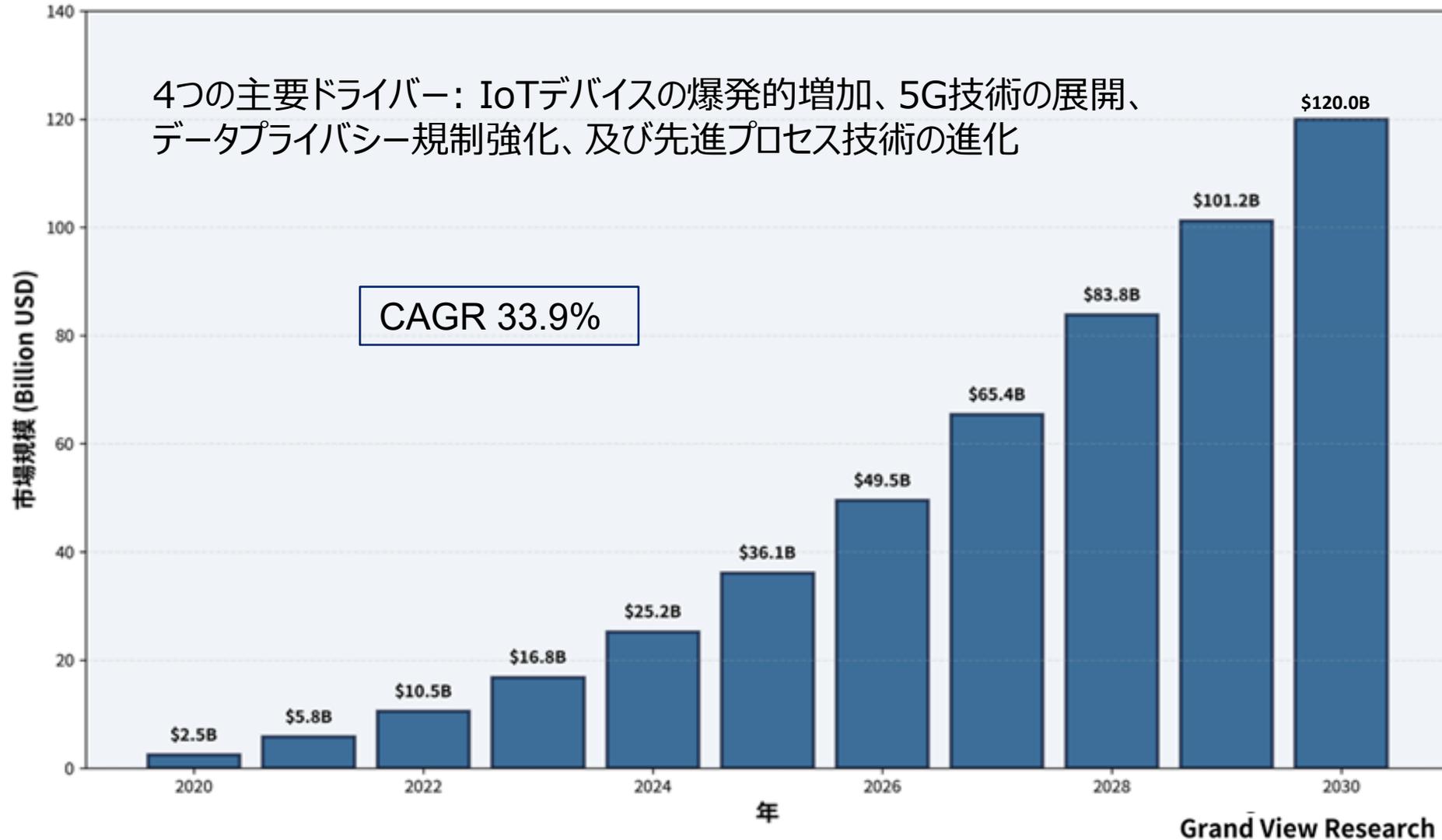
推論・再学習



エッジ

マルチモーダル：テキスト、音声、画像、動画、センサーデータなど、複数のデータを処理するAI技術







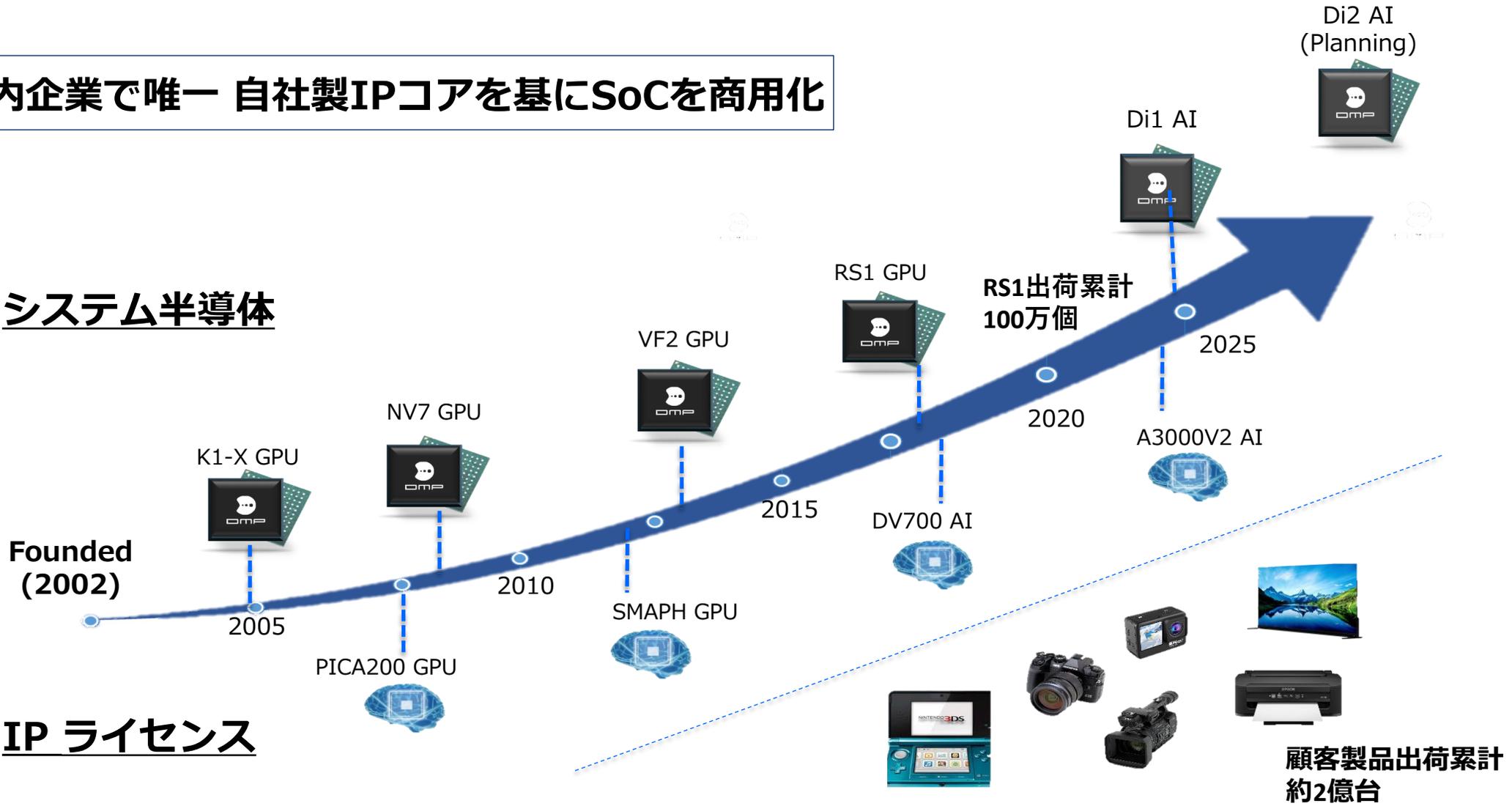
## 「エッジAI半導体のリーディングカンパニー」へ

- 20年以上のGPU/AIプロセッサ開発経験
- ドメイン最適化を可能にするアルゴリズム、ソフトウェア、SoC、システムの統合開発プロセス
- GPU/AI IPライセンスによる顧客製品出荷累計約2億台
- アミューズメント向けSoC「RS1」出荷累計100万個突破（2025年12月）

国内企業で唯一 自社製IPコアを基にSoCを商用化

## システム半導体

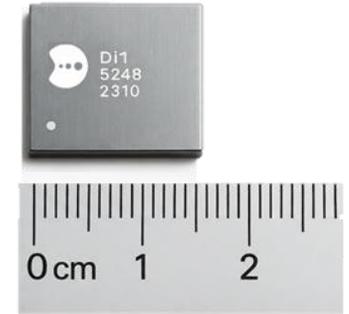
## IP ライセンス



## DMP Di1 Core Strengths

### エッジAI向けに最適化された設計

- 消費電力・性能・コストバランス
- ファンレス、ヒートシンクレス



### オープン&セキュアなAIプラットフォーム

- 標準AIフレームワークに対応、高い移植性・拡張性
- セキュアエンジン搭載、機密データを安全に処理
- ブロックチェーン実装によるデータ改ざん防止

### 日本発・グローバル対応チップ

- DMPの豊富な組み込みAI/GPU技術を結集
- 地政学リスクなしで世界各国展開可能





オートモーティブ



AMR/ロボティクス



スマートファクトリー



セキュリティ

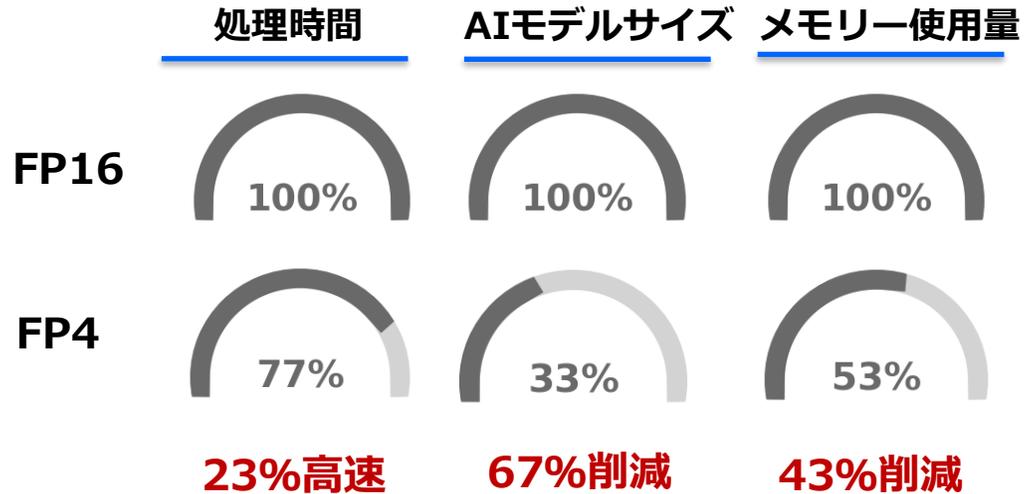


サイネージ



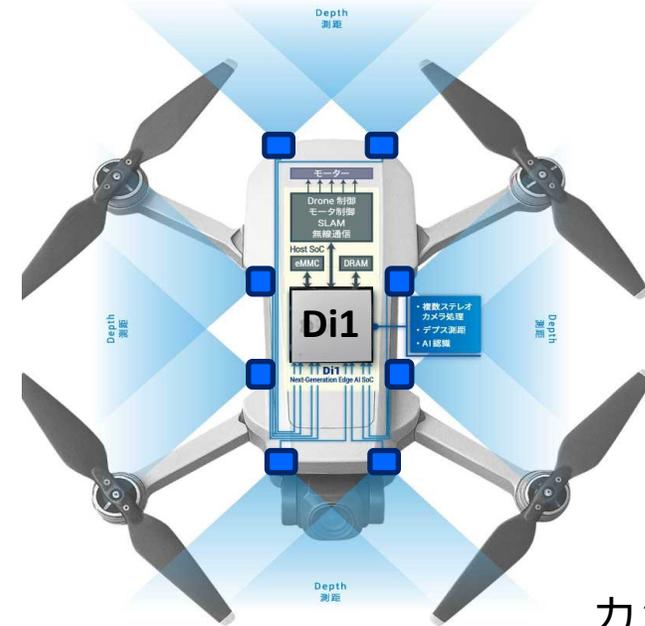
ドローン

## エッジAIで世界で初めてFP4を搭載 高精度推論とメモリーサイズ大幅低減を両立



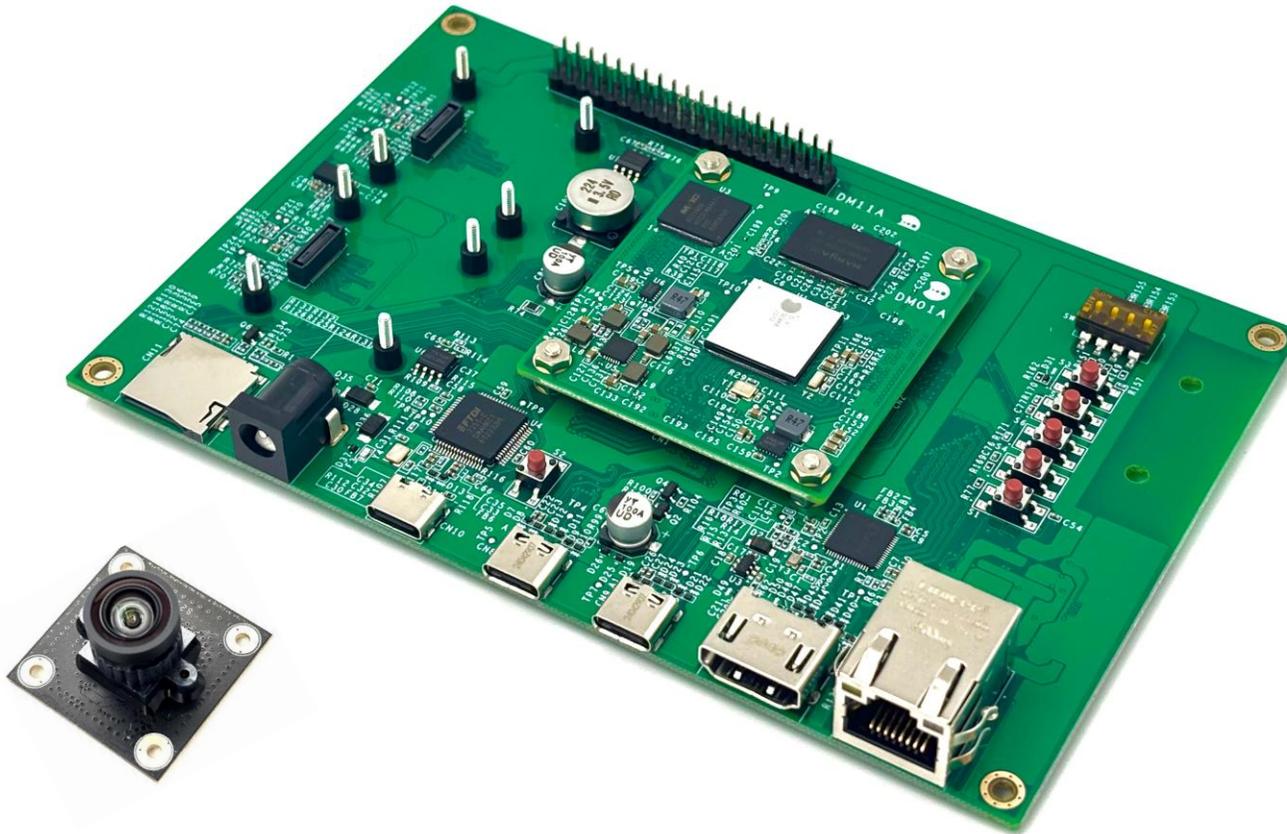
注) FP16: 浮動小数点16ビット演算, FP4: 浮動小数点4ビット演算

## クアッドチャンネルステレオビジョン搭載 360度インテリジェンスを実現



カメラ(最大8個)

## 2025年9月から提供開始



評価ボード  
カメラモジュール (2025年11月から)  
Software & Tools  
ドキュメント



### Edge Technology 優秀賞

CG-05 デジタルメディアプロフェッショナル  
エッジAIカメラSoC Di1

#### 世界初FP4対応、ViTとステレオビジョン技術でAI開発加速

Di1は、これまで高価なSoCでしか実現困難だった高度機能をワンチップに統合したエッジAI向けSoCです。世界初のFP4対応NPUは、VLM/LLMなど高度AIモデルを電力効率高く低コストでエッジ処理を実行します。一般的なINT8と比べAI処理性能1.9倍向上、メモリ40%削減。独自ステレオビジョンエンジンは他社比22倍の電力性能比で高速3D測距を実現し、放熱部品不要でコスト・重量を大幅削減します。4K HDR ISPやAIとの組み合わせで、ドローン・ロボティクスに求められる3D空間の視覚認識・AI処理を高速低消費電力で実現。豊富なI/Oと堅牢セキュリティも備え、セキュリティカメラ、車載ADAS、AMR等、幅広いエッジAIの進化を加速します。

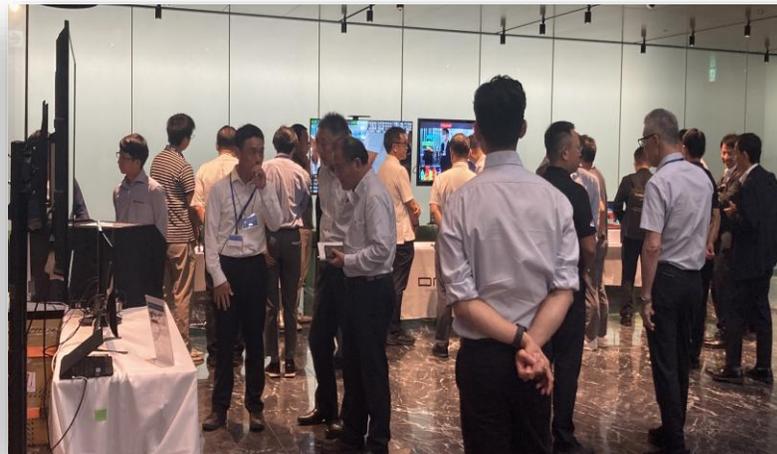
**講評** 本製品は、AI処理機能を統合したカメラ用システムオンチップ（SoC）であり、特にドローンなどのモビリティ機器への搭載を想定した設計が特徴である。360度の視界を4方向同時にエッジ側で処理することが可能で、クラウドや外部サーバーへ映像データを転送することなく、デバイス上で分析を完結できる。このアーキテクチャにより、リアルタイム性の向上や通信負荷の低減が実現されている。審査委員会は、本製品をエッジAI技術の実用化を推進する代表的なデバイスとして高く評価した。トレンドを的確に捉え、誰もが手軽にエッジAIの恩恵を受けられる環境を提供している点に価値を見出した。特に、ドローンや監視カメラなど多様な応用分野での需要拡大が期待され、今後の市場展開において重要な役割を果たすと考えられる。



## DMP EdgeAI ソリューションセミナー開催 (9月10日)

「Making the Image Intelligent Together」  
～最新のエッジAIとイメージセンサーの統合による新たな価値の創出～

- 参加：197名
- 満足度：97.4%
- ソフトバンク、アマゾン他が登壇
- セットメーカー、ソフトウェアベンダー、商社関係者が多数来場





台湾 iCatch Technology社から製品名「V9」で販売

成長性の高いインド市場でパートナーチャネル構築

インド監視カメラ市場 CAGR 17~19% > グローバル平均約11%  
(Grand View Research)

LLM推論エンジンとビジョンAI技術の融合により、従来のシステムでは困難だった「潜在的なリスクの予兆」を高精度で検知し、未然防止に貢献



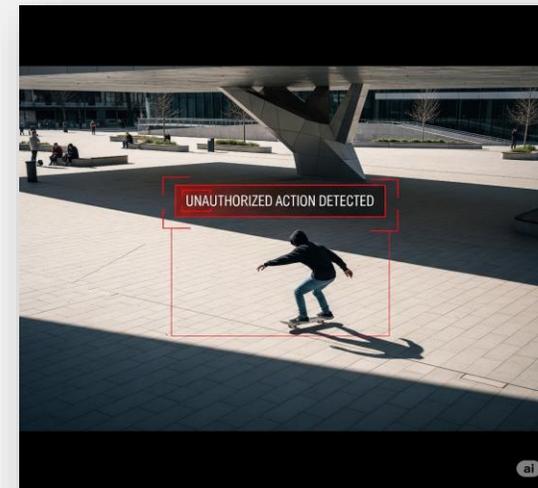
## 安全

ヒヤリハットの根本原因を「なぜ」のレベルで分析、事故の予兆を捉え、データに基づいた本質的な安全対策と教育を実現



## 遠隔

膨大な映像から、AIが重要インシデントのみを抽出・要約。管理者は"見るべき点"だけを把握し、迅速な意思決定が可能



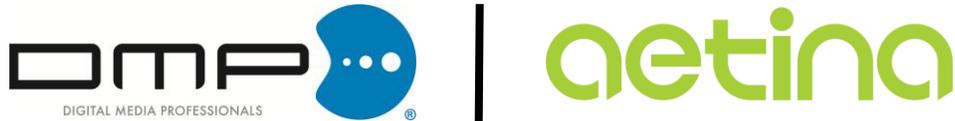
お客様の課題解決に特化したオーダーメイドのAIモデルを開発・提供

西尾レントオール様と開発した**スケートボーダー検出システム**は大阪・咲洲で稼働中、被害防止に貢献しています。AWSの活用により、最新LLMへの迅速なアクセスが可能となり、高精度な認識を早期に実用化できました。



# DMPがAetinaが提供するNVIDIA エッジAI製品群を日本市場で販売・サポート

- 「Di1」 + NVIDIAによるハイブリッドコンピューティングを実現 -



## AetinaのAIソリューション



DeviceEdge

SuperEdge

MegaEdge

学習・推論  
中-高電力

## エッジ側で再学習が可能なハイブリッドコンピューティングの例

ユースケース	エッジ		クラウド
	Di1	Aetina (NVIDIA)	
ロボティクス・AMR	障害物検知 360°監視 DMS セキュリティ	経路最適化 SLAM統合 適応学習	大規模 モデル学習 LLM
監視カメラ	VLMによる 異常行動検知 プライバシー	LLMによる 要約・通報 オフピーク学習	

## 成長分野への展開：エッジAI半導体事業

コア事業で培った強み、ノウハウを活かした、新たな分野での半導体ビジネスを展開  
モビリティ、スマートファクトリー、ドローン、スマートカメラなどの高成長市場で採用拡大

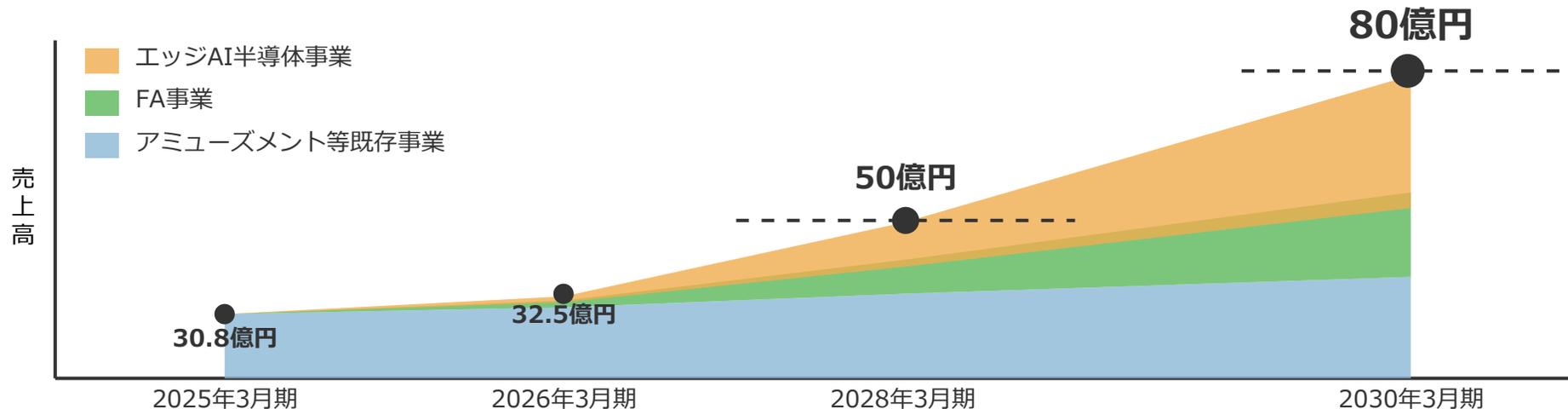
中長期的な  
企業価値向上

## 新規事業機会の獲得：FA事業

当社の更なる成長実現のため、新事業領域に取り組む Cambrian Vision Systemで築いた業界ネットワークを生かし、ロボティクス、ファクトリーオートメーション、物流自動化のさらなるスマート化により、日本の社会課題解決に貢献

## コア事業の更なる成長：アミューズメント事業

周辺ビジネスの取り込みによる付加価値増大とコスト低減などによる利益の強化



<お問い合わせ先>

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 経営企画部

TEL:03-6454-0450

URL: <https://www.dmprof.com/jp/ir/>

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。